

させて頂いたの意識改革 地域のトータルケアめざす

社会福祉法人 秀愛会
理事長

澤田 和秀 氏



法人設立の経緯を教えてください。

創設者である父は、妹が障害を持っていたことから、会社役員を退任後、1997年に法人認可を受けて、翌年に県内初の民間の重症心身障害児(者)施設(重心施設)「あゆみの郷」を開設しました。私は2000年に総務部長として入りしました。

最初はどんな印象でしたか。

初めは重度の障害の方にどう接

すれば良いのか見当も付きませんでした。それまで従事していたサービス業とは全く別の仕事だと思っていたのですが、間違いでした。

私だけでなく職員も「介護は困っている人にやってあげるもの」の意識があったと思います。しかし半年ほどして、職業としている以上はきちんとしたサービス精神を持たなくてはいけない、「やってあげる介護」から「させていた

だく介護」であるべきと気がつき、職員にもサービスの意識を高めるよう、教育することにしました。どのように意識改革されましたか。

当時は職員は一生懸命介護していたのですが、例えば食事の介助なら、食べさせてあげる「残さず食べなさい」となりますが、お客様へのサービスと捉えて「美味しく食べようね」と意識を変える。こうしたことを3年程かけて根付かせました。具体的には、私の考えを話しましたし、外部の研修にも積極的に行かせました。福祉関係だけでなく、銀行や経営者協会の新人研修なども受けて、異業種の人と交わることでだんだん意識が変わっていったと思います。

そして、組織でのサービスの充実を考え、制度も変えました。人事考課を入れて、給与体系や昇級制度を考えたのですが、当時の社会福祉法人で人事考課を取り入れているところはほとんどなかったと思います。ひな形がなく、前の会社での経験を参考にしました。営業、人事、経理と色々やらせてもらったことが役に立ちました。

—多様な介護、保育に対応—

2004年にはケアハウス事業を開始されました。

週末になると、ご家族が障害児を自宅へ連れて帰るのですが、親御さんが高齢化すると自宅での介護が大変になってくる。さらには遠方から訪問することすら難しくなる。県内だけでなく、重心施設のない岐阜県からの利用者もいました。

施設には家族介護室があったのですが、近くに住みたいという要望を受けて、高齢者向けの健康な介護認定のない方でも入居できるケアハウスを始めました。

2008年からは大沢野ちゅうおう保育園(現・こども園)の経営もされています。

女性中心の職場なので、以前から事業所内保育を考えていたのですが、近くの保育園が民営化されると聞いて手を挙げました。地域から子供の施設がなくなると、地域文化の崩壊につながる懸念もありました。最初は児童数も減少していましたが、障害児施設もやっているということから発達の子の受け入れを積極的に行うことにより子供が集まるようになり、今年初めて定員に達しました。地域の人から安心して預けられる保育園と認められたことだと思っています。

2010年には重心施設を増床され、リハビリ室も設置されています。

最初の10年は施設を運営することで精一杯でしたが、少し余裕ができ、また職員の意識も変わってきた中で、リハビリに力を入れたいという意見が出てきました。重症児の障害を進行させないようにしたい、障害者が力強く生きていくことをお手伝いできればと考え、施設を増床を機にリハビリテーション室を作り、さらに生活介護(重度障害の在宅)サービスとしてデイサービスも始めました。

現在は軽度の障害者の就労支援も行っており、竹の炭を焼いたり外構清掃などをする多機能事業所

「ステップ」と、農業を行う就労支援事業所「ハーベスト」を設置しています。ハーベストでは地域の耕作放棄地の問題にも取り組んでいます。

—夢を持っていただく—

立山山麓で新しい取り組みを始められると聞いています。

今、車中泊をしながら自動車旅行を楽しむ人が増えていますが、来年から、らいちょうバレースキー場の空き施設で、車旅のサポート事業を始めます。

従来の障害者就労は内職的な単純作業のイメージがありますが、サービス業として一般のお客様と触れ合うことで、閉鎖的な世界から抜け出すきっかけになるし、一般の人から認知してもらえないかと思っています。同時に、サポートする職員も一般の人との繋がりができればいいと考えます。私自身もかつてアルペンルートやスキー場運営に関わっていたので、山間地域の過疎対策に役立つことができばうれしいです。介護・福祉はどうあるべきでしょうか。

これまでのように大型施設ばかりでは一人一人に目が届かないし、現在強化されている在宅介護も、仕組みが整っていない地方では無理があります。過疎地域の少人数の福祉には高齢者や障害児が一緒

に過ごす富山型のデイサービス、町の中ではある程度の収容ができる施設と、地域のニーズに沿った福祉が必要です。高齢化が進む一方、共働きで子供を預けなくてはいいけないなど、課題も複雑化しています。福祉の現場は専門職でありながら、色々な知識とスキルが求められていくと考えています。秀愛会ではどうされていますか。

正職員には施設間の人事異動を行っています。介護士、看護師、保育士など、福祉の現場は専門の知識と技術が必要ですが、地域の色々なニーズを考えて柔軟なサービス提供ができるようにしていきたいと思っています。

最初に組織改革したことによって今の展開にスムーズに移行できました。今後、新しい地域ニーズが出てきたときに、「やってみたい」と手を挙げてくれる人材の育成を目指しています。

好きな言葉を教えてください。

数年前、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」という吉田松陰の言葉に出会いました。職員には地域が必要とするプロとしての仕事に誇りを持ってもらい、障害者に夢を持ってもらえるサービスを提供していきます。

法人概要

社会福祉法人 秀愛会

設立：1997(平成9)年7月
所在地：富山市稲代1023
従業員数：150名(2015年11月現在)
事業活動収入：8億7,720万円(2015年3月期)
運営施設：障害児入所施設・療養介護施設「あゆみの郷」、高齢者用ケアハウス「そよかぜの郷」、「大沢野ちゅうおうこども園」、多機能事業所「ステップ」、就労支援事業所「ハーベスト」

URL：http://www.ayumi-toyama.jp

略歴

1962(昭和37)年9月生まれ。富山市出身。日本大学法学部卒業後、富山地方鉄道(株)勤務を経て、2000年社会福祉法人富山愛幸同友会(現秀愛会)入職。'02年理事、'04年常務理事、2010年から理事長就任。現在、全国社会福祉法人経営者協議会協議員を務める。

